



令和4年5月28日

高松凌雲先生銅像建立に向けての実行委員会設立への趣意書

小郡三井医師会
会長 島田 昇二郎
高松凌雲顕彰会
会長 西原 貫二

私ども小郡三井医師会と、平成13年に小郡市内外有志により結成された高松凌雲顕彰会は、以後ひたすら高松凌雲先生のご業績を小郡市民、その他の地域へ啓蒙せんがため頑張ってきました。

毎年春に、小郡市、大刀洗町、久留米市北野町の全17小学校から1000名近い児童の参加を見ましての「高松凌雲記念かきぞめ大会」を举行しているのも、その大きな行事のひとつです。残念ながら令和2、3年は実施できませんでした。

彼ら小学生は、凌雲先生のご業績、特に多くの人のために医師を志したこと、日本で最初に赤十字活動を実践したこと、同愛社を設立して貧しい人たちのために医療救済活動を実践したことなどに感銘を受けていることがわかります。

これは、今年度以降に再興していく覚悟でございます。

そこで、以前より議論のありました凌雲先生の銅像を小郡市内に建立しようではないかという動きであります。このことが近年にわかに具体性をおびてまいりました。私たち小郡三井医師会と顕彰会といたしましては、小郡市の住民以外にも、他地域からの小郡への訪問者にも小郡の医傑、高松凌雲先生の視覚的な印象を投げかけ、その偉業を知っていただく絶好の機会だと認識しています。

でありますから、凌雲先生の銅像を遅くとも来たる令和7年までに建立する旨、ここに宣言するものであります。

つきましては、銅像建立のための実行委員会を立ち上げるため、今年中に第1回目の集まりを予定いたしております。

その席で、参加の皆様から銅像建立の具体的、あるいは実際面のお知恵をお借りしたいものと考えています。

何卒、私どもの意志をおくみ取り願ひ、凌雲先生の銅像建立に向けてのご協力と、ご教示を賜りたいものと考えて、この趣意書を作成いたしました。ご協力、ご賛同を切にお願いいたします。

医傑 高松凌雲

高松凌雲先生は天保7年（1836年）筑後国御原郡古飯村（現在の小郡市古飯）に生まれた。23歳より医学を志して江戸に上り、30歳で一橋家、後の第15代将軍徳川慶喜の奥詰医師となった。

その後、パリ万博へ幕府派遣団員として、渋沢栄一等と共に渡欧し、ヨーロッパ各地の現状を視察する傍ら、最新の医療技術や赤十字活動等を学んだ。鳥羽伏見の戦いで、旧幕府軍が大敗したとの知らせに急ぎ帰国し、函館五稜郭の戦いに参加、函館病院院長となり、周囲の反対を押し切って敵軍の負傷者も手厚く治療し、我が国で初めての赤十字活動を行った。明治12年、志を同じくする東京の医師仲間と、貧しい人々の施療のための同愛社を設立し、後半生をその発展の為に捧げた。これが日本最初の民間人による社会事業となった。

大正5年10月12日、東京上野鶯谷の自邸で波乱に満ちた生涯を閉じた（80歳）。 小郡三井医師会

小郡市高松凌雲顕彰会

恐れ入りますが、高松凌雲顕彰会の今後の活動の参考に致したく、本アンケートに下記要領にて、ご回答をお願い致します。

☐ 知っている ☐ 知らない☐ 知りたい ☐ 思わない☐ 知っている ☐ 知らない☐ 知っている ☐ 知らない☐ 良いことだと思う ☐ 思わない ☐ 関心がない☐ 良いことだと思う ☐ 思わない ☐ 関心がない☐ 協力できる ☐ 協力できない ☐ 活動内容による☐ 関心がある ☐ 関心がない ☐ 活動に参加したい

記

2. ご回答頂いた方の団体名又は個人名をご記入下さい。

団体名（又は個人名）【 】

4. 締切日 令和4年6月10日（金）迄にご回答頂ければ幸甚に存じます。

有難う御座いました。